

本気野菜 ナスの育て方

①土づくり: 日当たりが良く、できるだけナス科を連作していない場所を選びましょう。

【植えつけ2~3週間前】→



堆肥2kg/m²、苦土石灰100g/m²を混ぜ、よく耕して土づくりをしておきます。

【植えつけ1週間前】→



配合肥料[8-8-8]など100g/m²を混ぜ込み、幅約60cm、高さ20cmほどの畝を作り、マルチフィルムを張って下さい。マルチフィルムを張ることで雑草や泥ハネを防ぎ、病気にかかりにくくなります。

②植え付け(畑での栽培をお勧めします) :

【畑の場合】日当たりがよく、できるだけナス科を連作していない場所を選んで植えつけます。

植えつけ2~3週間前に、堆肥2kg/m²、苦土石灰100g/m²を混ぜ、よく耕して土作りをします。有機石灰(牡蠣殻など)を使うと混ぜ込んですぐに苗を植えつけることができます。株間50cm以上で植え付け、直後に仮支柱を立てます。一番花が咲く頃に主枝と勢いの強い枝2本を残して、3本仕立てにします。

ナスに適した肥料はようりん+堆肥や骨粉+堆肥など。長く効き続ける元肥をあらかじめ畑全体にすき込んでおきます。



【コンテナ・プランターの場合】

土の容量が20L以上の大きめの鉢を目安に選び、1株植えとします。日当たりのよい場所に置きましょう。

「本気野菜の土」など、野菜用培養土を選びます。入れる量はウォータースペースを残し、8~9分目程度にしておきます。

日当たりのよい場所で育てます→



③追肥: ナスは肥料を多く好みます。植え付け後から2週間に1回を目安に隨時追肥してください。

夏場は毎日の水やりを薄い液肥に替えてよいでしょう。株の勢いを保つことが長く収穫するために重要です。



【追肥】畑の場合: 畝の両側に1株あたり配合肥料50g程度すき込み→

④整枝・わき芽かき: 一番花までのわき芽は摘み取りましょう。一番花が咲く頃に、主枝と勢いの強い枝を2本残して3本仕立てにするとよいでしょう。夏になり、枝が混みあってきたら剪定します。細かく分枝した側枝を切り除き、太く充実した枝を選んで、葉を数枚残し、草丈の1/2を目安に剪定。追肥もします。

涼しくなった頃から再び旺盛に葉茎が伸び、新しい枝からは「秋ナス」としておいしい果実が収穫できます。

④水やり:

ナスは乾燥に特に弱い作物です。特にコンテナ栽培は乾燥しやすいため、夏場は毎日水やりをしましょう。炎天下での灌水は避け、朝か夕、気温が下がってからたっぷり施します。葉裏にも水をかけると、ハダニやアブラムシなどの害虫を防ぎやすくなります。

⑤収穫: 「とろとろ炒めナス」の収穫適期果長は、10~15cm

また、ヘタのすぐ下が色づいていないのは、果実が勢いよく肥大している証拠です。こちらも「おいしい収穫」のタイミングの目安にしてください。果皮がツヤツヤとして張りがあるうちに収穫します。ヘタにはトゲがあるので取り扱いに注意。各品種の収穫適期に収穫を。ヘタのすぐ下が色づいていないのは、果実が勢いよく肥大している証拠。「おいしい収穫」のタイミングの目安にしてください。

●「おいしい収穫」のタイミングサイン↓



●その他ポイント: 肥料・水をきらさないことが大切です。